

事務事業名		42100	大原幽学記念館管理費(活動費含む)	予算科目	会計	款	項	目	担当班	文化振興班
実施体系		基本施策	13	芸術文化の振興・伝統文化の保存	根拠法令	文化財保護法、博物館法、大原幽学記念館の設置及び管理に関する条例	10	4	11	☒ 主な事業
施策の展開		27	文化財の保護	戦略事業	131	大原幽学関係資料の保護・保存				☒ 国土強靱化地域計画
施策の展開				戦略事業						☒ 新市建設計画
										☐ 定住自立圏構想
										☐ 主要事業

(1) 事務事業の概要

① 事務事業の期間	② 事務事業の内容 ※何をどのようにする事務事業なのか、市民が理解できるよう記述する、行政用語は使わない
☒ 単年度繰返 ☒ 平成 7 年度～ ☐ 開始年度不詳 ☐ 期間限定複数年度 平成 年度～ 平成 年度まで	大原幽学及び郷土の歴史・民俗等に関する資料を収集・保管・展示を行うことで地域文化の向上に寄与するため、古文書調査の実施、収蔵庫内の管理、企画展示や講座の開催を行う。【活動経費】臨時職員2名(館長・用務員)の賃金、講師や研究員の謝礼、印刷物の作成費などがある。【維持管理業務】記念館は敷地面積1,531.5㎡、延べ面積1,134.28㎡の鉄筋コンクリート地上2階建の施設で、展示室、収蔵庫、学習室などからなっている。国指定重要文化財の大原幽学関係資料を中心とする郷土の歴史・民俗資料の保存・管理や来館者の対応のため、設備の保守・整備を行う。保守点検(浄化槽・受電設備・消防設備・エレベーター)、館内清掃、くじよう作業を含む館内環境調査、ネズミ防除を業者に委託している。
③ 事務事業開始の経緯・事務事業の現状	④ 事務事業に関する課題・環境の変化
大原幽学関係資料が国指定重要文化財となり、専門職員を擁した保存公開施設が必要となったため、平成8年3月に記念館が開館し、博物館施設としての業務が行われるようになった。	・新しく発見された古文書などがあり、国指定重要文化財の追加指定を目指して、継続して調査、研究を行っている。・記念館が立地する遺跡史跡公園内にあったキャンプ場が平成21年度で廃止。農水産課が同公園で実施する交流事業は平成19年度から開始したが、事業数・参加者数が減っている。
	⑤ 事務事業に対する住民からの意見等
	・施設利用者の方から「高齢者の使用料免除がなく不満」、「せっかく良い展示があるのにPRが足りない。地域の子どもたちにもっと利用してもらってはどうか。」との意見がある。

(2) コスト・特定財源の状況

① 事業費の詳細(30年度の決算)		単位:千円	27年度(決算)	28年度(決算)	29年度(決算)	30年度(決算)	31年度(予算)
1.賃金	2,809	記念館長、用務員賃金	2,685	2,685	2,759	2,809	4,784
2.報償費	912	講師謝礼、研究員報償費	858	852	924	912	996
3.需用費	4,186	光熱水費、修繕料、消耗品、印刷費、図書購入、ガソリン代	4,214	4,093	6,956	4,186	5,449
4.委託料	2,049	保守(浄化槽・受電・消防・エレベーター)、消毒、ネズミ防除、清掃	2,214	2,213	2,021	2,049	4,667
5.その他	1,581	旅費、役務費、使用料、賃借料、備品	1,435	1,356	1,578	1,581	29,278
② 特定財源の内訳(30年度の決算)		単位:千円	事業費計(A)	11,406	11,199	14,238	11,537
1.国庫支出金	0		1.国庫支出金	千円			
2.都道府県支出金	0		2.都道府県支出金	千円			
3.地方債	0		3.地方債	千円			26,000
4.その他	541	入館料	4.その他	千円	603	566	541
			5.一般財源	千円	10,803	10,633	13,682
						10,996	18,597

前年度増減理由	修繕料の減
---------	-------

従事職員数	常時 2 人	最大 人	× 日 =	延べ 0 人
-------	--------	------	-------	--------

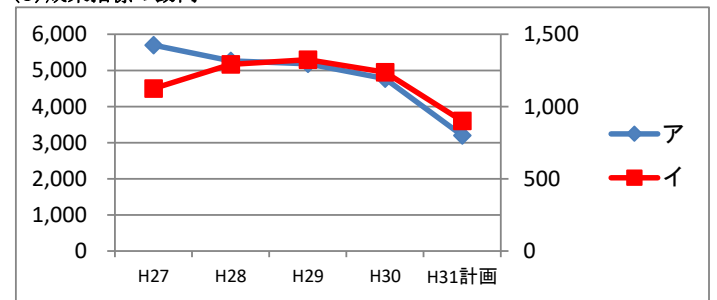
(3) 事務事業の手段・目的と対応する指標

手段	① 主な活動	③ 活動指標名	単位	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(計画)
	30年度実績(30年度に行った主な活動)							
	・収蔵品展の開催	ア 記念館開館日数	日	305	301	295	305	200
	・文化財調査事業							
	・各種講座	イ 講座・企画展開催回数(延べ)	回	85	91	90	83	70
目的	② 対象・意図(対象がどのような状態になるのか)	④ 成果指標名	単位	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(計画)
対象	市民、観光客	ア 大原幽学記念館の年間入館者数	人	5,700	5,266	5,180	4,774	3,200
意図	記念館へ来館することにより、郷土の偉人である大原幽学の活動や業績を知ることができる。							
対象	市民	イ 講座受講者延べ人数	人	1,125	1,291	1,324	1,238	900
意図	地域の歴史や文化財に対する理解が深まる。	イ(学習機会をもった利用者がどれくらいいるか)						

(4) 事務事業優先度評価の結果

①成果優先度評価結果			②コスト削減優先度評価結果						
		成果向上余地			コスト比率				
		かなりある	ある程度ある	ほとんどない	下位 1/3	中位 1/3	上位 1/3		
施策貢献度	大きい				評価結果	①			
	普通		⑤			②			
	小さい					③			
						④⑤			
				⑥					(11)
				⑦⑧					
				⑨					

(5) 成果指標の動向



(6) 事務事業に関する評価

① 進捗状況	☐ 完了 ☐ 順調 ☒ 概ね順調 ☐ 停滞 ☐ 実施困難
【コメント】(停滞・未実施・実施困難の場合、その理由)	
② 成果の状況	成果指標ア 成果指標のタイプ ☒ 数値増＝成果向上 ☐ 向上 ☐ 横ばい ☒ 低下 成果指標イ ☒ 数値増＝成果向上 ☐ 向上 ☐ 横ばい ☒ 低下
【コメント】(低下の場合、その理由)	研修視察団体の減少、行事による参加者数の減少のため。
③ 今年度取組事項(31年度に取り組む主な事項について記載)	時期 令和元年度中 内容 登録博物館の申請に伴い、収蔵資料目録を作成する。 空調設備の改修工事を実施する。
今後の方角性	☒ 拡大 ☐ 現状維持 ☐ 見直し ☐ 縮小 ☐ 廃止・休止 ☐ その他()
成果動向	ア 525 △434 △86 △406 △1,574 イ 332 166 33 △86 △338
	令和元年度中・登録博物館の申請に伴い、全資料の目録を作成する。 空調設備の改修工事を実施する。